

【研究の概要】

＜スローガン＞ みんなで創る！！ 笑顔満開 大宮北中
 ＜目指す学校像＞
 ・生徒一人ひとりが「来甲斐」「居甲斐」「やり甲斐」のある学校
 ・伝統の継承と新たな構築による信頼される学校

＜目指す生徒像＞
 ・夢や目標をもち、実現に向け、日々努力する生徒
 ・様々な課題に対し、あきらめずに主体的に物事を解決する生徒
 ・思いやりの心をもち、コミュニケーション力、表現力のある生徒

＜本校の生徒の実態と教師の思いや願い＞
 ○本校生徒は、学級の係活動を積極的に行ったり、困っている友達に声掛けをしたりするなど、素直で優しい生徒が多い。人と関わる事には抵抗がなく、教師や友達に対しても自分から話しかけたり、一緒に遊んだりする姿も見受けられる。
 ●人と関わりを持つ中で、相手の気持ちを気にかけることなく自分の思いだけで接したり、周りの状況や雰囲気を察することなく思いのまま行動したり発言したりしてしまう場面もある。
 ○どの教科においても落ち着いて学習に取り組むことができる。
 ●指示の理解が苦手な生徒や自分の気持ちを言葉にすることが苦手な生徒もいる。
 ○個々の発達段階は様々であるが、元気に明るく、何事にも前向きに活動に取り組むことができる生徒が多い。
 SCS シート6の結果より
 ○「人間関係形成・社会形成能力」が高い。
 ●「キャリアプランニング能力」の面で課題がある。

研究主題

「未来社会をたくましく生き、新たな時代を創り出す生徒の育成」
 ～「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実～

＜主題設定の理由＞

生徒の実態と教師の思いや願い・さいたまキャリアシートのアンケート結果等から、本校生徒の課題として「働くことの意義」を理解し、「将来のキャリアを計画的に形成していく力」を身につけていく必要がある。そのため、研究主題を、「未来社会をたくましく生き、新たな時代を創り出す生徒の育成」～「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実～とした。

＜主題に迫る手立て＞

仮説1
 自分の適性や価値観、環境などを踏まえて、将来のキャリアについて主体的に考える

→「働くことの意義」を理解できるようになるのではないか

仮説2
 計画を立てて、実行に移す能力を身につける

→実際に行動したり、考えたことを振り返ることで「目標に向かい行動できるキャリアプランニング能力」を身につけることが出来るのではないか。

＜具体的な取組＞

①【SCS（さいたまキャリアシート）等の活用】
 自身を見つめ、振り返りをさせることで、今後の将来設計に役立てる。また、発達段階に応じた進路適正検査（PAS カード）を実施し、生徒一人ひとりの適正を調べることで、将来について考えさせる場面をつくり、キャリア教育の推進を図る。

②【アンケートの実施に基づいた授業でのアプローチの検討・工夫】
 SCS シート5・6・8を実施し生徒の実態を把握し、課題から目標を立て生徒の変容を提示する。生徒各自で振り返りを行う

（学年または教科・領域）

①全学年で実施
 ②職員で周知し、教科等で具体的な実践を取り入れていく。

＜具体的な取組＞

③【今を頑張ろう！振り返りシート】の作成、実施
 実際に地域に出て活動する「未来くるワーク体験（職業体験）」の学習を通して職業観の醸成を図る。

④【話し合い活動の充実】

「大宮北中学校の話し合いのきまり」を作成し、実践することで「基礎的・汎用的能力」（①自己理解・自己管理能力②人間関係形成・社会形成能力③多大対応能力④キャリアプランニング能力）を高める。

（学年または教科・領域）

③各学期末実施（学年によって月末に実施。）
 ④「大宮北中学校の話し合いのきまり」を1学期周知し、各行事等の学活で実施。

仮説3

前向きに努力する心や相互理解や助け合いの心を生み、より良い社会環境を自らつくることが出来る行動を行う。

→学習時の姿勢を意識することや「あいさつ」を積極的におこなうことで、意欲の向上、つながりや信頼、助け合いの心が育つのではないか。

仮説4

実際の進路先の話を聞いたり職場を体験したりすることで、社会に必要な力を体感する。

→「自分の未来像」を意識して生活できるようになるのではないか。

＜具体的な取組＞

⑤【姿勢の意識】

学業成績と姿勢の間には相関関係があることが、示唆されている。各教科共通して姿勢を意識して授業を受けることが出来るよう声掛けしていく。

⑥【あいさつ運動の実施】

今年度より「いじめ撲滅」がきっかけで挨拶運動が始まったが、あいさつが習慣化し、コミュニケーションに効果を發揮することで、つながりや信頼、助け合いの心を育てることができる。あいさつは相互理解や助け合いの心を生み、より良い社会環境をつくるきっかけとなると想像できる。

（学年または教科・領域）

⑤全学年・全教科で実施。

⑥各部活動ごとに日にちを割り振り、朝の挨拶運動を実施する。



＜具体的な取組＞

⑦【上級学校説明会】

近隣の高等学校2校（私立・公立）に来ていただき、高校での生活や今身につけてほしい力について担当の方より話を聞いていただく。

⑧【地域との交流】

実際に地域に出て活動する「未来くるワーク体験（職業体験）」の学習を通して職業観の醸成を図る。

（学年または教科・領域）

⑦2学期（11月）に第1・2学年 生徒保護者対象にて実施。
 ⑧1学期（7月）に第2学年にて実施。



【SCS シート6によるアンケート分析について】

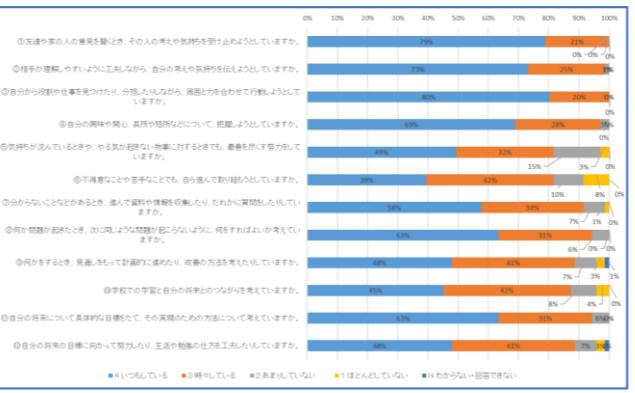
さいたま市キャリアパスポートシート(SCS)のシート6【将来、必要となる力について考えてみよう】を令和5・6年度に実施しアンケートの分析を行った。本校はどの学年も以下の結果がアンケートでわかった。

○質問①～③ができるので全学年とも「人間関係形成・社会形成能力」が高い。

●質問⑩に課題があるため全学年とも「キャリアプランニング能力」の面で課題がある。

そのため、様々な取り組みに対し、この「キャリアプランニング能力」を意識した教育活動を行った。特に、学期または月はじめに記入する生活目標の振り返り（「今を頑張ろう！〇月振り返りシート」）は本校研修担当にて提案され、各月月末に振り返りの記入を行った。目標が目標で終わらないよう具体的にどのようにすれば、目標が達成できるか各自で振り返る時間をとり「キャリアプランニング能力」の向上を図った。

令和7年10月に、各学年にてシート⑥【将来、必要となる力について考えてみよう】のアンケートを再度実施し、生徒の変容をみたが、どの学年もシート⑥を行うごとに上昇がみられた。特に3年生10月の「シート6」アンケートは、全ての質問事項において、「4いつもしている」「3時々している」の計が80%を超えることが出来ていた。概ね「将来必要となる力」が身につけることが出来た。



(1年生) 8%上昇 (2年生) 6%上昇

アンケート⑥不得意なことや苦手なことでも、自ら進んで取り組もうとしていますか。

(2年生) 7%上昇

アンケート⑧何か問題が起きたとき、次に同じような問題が起こらないように、何をすればよいと考えていますか。

(2年生) 7%上昇

アンケート⑪自分の将来について具体的な目標をたて、その実現のための方法について考えていますか。

↑SCS シート⑥ R7 1・2年生 10月に実施したアンケートの結果より
 ※前回実施よりも大きく上昇が見られた項目

↑R7 10月の3年生アンケート結果はすべての質問で「4いつもしている」「3時々している」の計が80%を超えていた。



アンケート実施の生徒の様子



「大宮北中学校の話し合いのきまり」を使った学活の様子



「進路・キャリア教育」の学級活動の様子

【まとめ】

今回の研究では、SCSシートの結果を分析し「進路指導・キャリア教育」の実態把握をおこなった。結果、本校生徒は「キャリアプランニング能力」が低いことがわかり、職員間で共通認識をしながら、様々な実践を取り組み生徒の変容を確認した。実践したものの中でも、研修担当が作成した「今を頑張ろう！振り返りシート」は、今まで取り組んでいた「月の目標」や「学期の目標」を、途中で振り返りながら計画的に目標を達成出来るシートとして大きな必要性を感じ取り組むことが出来た。研究発表が終わり、一区切りとはなるが、このシートの活用も含め、「進路・キャリア教育」を意識した教育活動を発達段階に応じ適切な指導を実施していく。学年が上がったり、職員等が代わったりしても活動が途切れないと来年度に向けての引き継ぎも工夫していきたい。

また、本校の「目指す生徒像」である「夢や目標をもち、実現に向け、日々努力する生徒」「様々な課題に対し、あきらめずに主体的に物事を解決する生徒」「思いやりの心をもち、コミュニケーション力、表現力のある生徒」を意識することが「進路・キャリア教育」の重要な方策のひとつになると考える。常に「目指す生徒像」に戻り、全ての教育活動に邁進する。

最後に、本研究の成果と課題を踏まえ、今後の教育活動に生かし、「みんなで創る！！笑顔満開 大宮北中」に向け、今後も尽力していきたい。

講師紹介

文 教 大 学

教 授 新井 立夫



「進路を深く考える経験」は学習意欲を高め、学習行動を促進する。2025年5月29日公表の東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所 共同研究プロジェクト「子どもの生活と学びに関する親子調査2024」結果 10年間の縦断調査で子どもの「なりたい職業」の変化や進路探索行動を分析において、皆様にご紹介したいのは、「進路について考えることは、学習意欲を高め、学習行動を促進する可能性がある」ことが示されたことです。「この1年くらいの間に、あなたは次のようなことを経験しましたか」という質問項目に掲げられる選択肢のうち、「自分の進路（将来）について深く考える」を選んだ子どもの割合は、小学校4~6年生で26.3%、中学生で44.2%、高校生で65.2%であり、卒業後の進路の決定が迫られる中学生と高校3年生においてその比率が特に高くなりました。

そして、「進路について深く考える」経験があった子どもは、そうでない子どもに比べて、「勉強が好き」「興味を持ったことを、学校の勉強に関係なく調べる」の肯定率が高いと同時に学習時間も長いことが示され、かつ、「社会の出来事やニュースに関心が強い」を肯定する比率が高く、「新しいことや難しいことにいつも挑戦したい」という気持ちも高い傾向にあるという結果となりました。さらに、「尊敬できる先生がいる」「先生に悩みを話す」「先生に感謝する」を肯定する群は「進路について深く考える」経験をしている比率が高く、「勉強や成績」「将来や進路」「社会のニュース」について父親や母親と話をする頻度が高いほど「進路について深く考える」経験をしている比率が高いことも明らかとなりました。教員や保護者との良好な関係性を基盤とした対話的な関わりが「進路について深く考える」ことを促す要因の一部となっていることが示唆されます。

以上の結果から、「キャリア教育」「進路指導」が必要な時代だということをあらためて実感しました。教師と児童・生徒間の信頼関係の構築を前提とした学級経営や、日常的な対話を含んだきめ細やかなキャリアカウンセリング、キャリアガイダンス、進路学習などの重要性は自明であります。

本日は、「未来社会をたくましく生き、新たな時代を創り出す生徒の育成」を視点とした、新たなる「キャリア教育」「進路指導」の在り方について、皆様と考えてみたいと思います。

【御指導いただいた先生】

さいたま市教育委員会教育課程指導課主任指導主事

高見澤 悠 様



令和7年度 さいたま市教育委員会委嘱 「進路指導・キャリア教育」

埼玉県進路指導・キャリア教育研究発表会
25地区進路指導・キャリア研究協議会

「未来社会をたくましく生き、 新たな時代を創り出す生徒の育成」

～「個別最適な学び」と「協働的な学び」の
一体的な充実～

校長あいさつ



さいたま市立大宮北中学校

校長 廣江 剛

本校では、令和7年度さいたま市教育委員会委嘱「進路指導・キャリア教育」、埼玉県進路指導・キャリア教育研究会の研究委嘱を受けました。子どもたちが育つ社会環境の構造的変化、雇用の多様化・流動化等は、子どもたち自らの将来のとらえ方に大きな変化をもたらしています。子どもたちは、自分の将来を考えるのに役立つ理想とする大人のモデルが児童にいく、自らの将来に向けて希望あふれる夢を描くことも容易ではなくなります。そういう時代だからこそ、子どもたちが「生きる力」を身につけ、社会の激しい変化に流されることなく、それぞれが直面するであろう様々な課題に柔軟かつたくましく対応し、社会人として自立していくことができるようになる教育が強く求められています。

本校は、学校教育目標「人間性豊かな実践力のある生徒」の具現化に向けて「みんなで創る！！笑顔満開・大宮北中」を合言葉に、生徒一人ひとりが「来甲斐」「居甲斐」「やり甲斐」を感じられる学校づくりを全ての教育活動を通じて進めてまいりました。また、9年間の学びの連続性を鑑み、大宮北小学校と小・中一貫教育に取り組み、本年度は、「進路・キャリア教育」の取組について協議を行いました。研修の中で本校の教員が子どもたちに「育みたい力」として挙げたのが、「自分で決めた目標に向かって根気強く取り組むことができる」「学習を自分で計画を立てて進めることができる」「自分が好きと言える」「困った時に相談ができる」「あいさつ・掃除・時間を守ることができる」「自分の好きなものに全力で取り組むことができる」「自分の意見や考えを表現することができる」といったものでした。これらの力は、日々の授業を中心としたあらゆる教育活動の中で積み上げていくものであり、今回の研究授業についても、日々の授業実践の一コマを取り上げるようにしました。ぜひ、様々な角度から御高覧いただき、忌憚のない御意見を頂戴できれば幸いです。

結びに、御指導いただきましたさいたま市教育委員会の皆様と御講演を快く引き受けくださいました文教大学の新井立夫教授に心より感謝を申し上げます。



さいたま市立 大宮北中学校
令和7年11月12日(水)